

天草の海の施設を訪ねてみよう！

天草・海施設探訪②「熊本県水産研究センター」

- 対象年齢：幼児～大人
- 実施場所：熊本県水産研究センター研修センター（上天草市大矢野町中 2450 番地 2）
- 開館日時：平日 9 時～16 時
- 休館日：土日祝日 ※コロナウイルス感染防止のため 2 月末から当分は一般見学受入を休止中です。電話でご確認ください。
- 見学所要時間：30 分～1 時間程度
- 予約：基本的に不要。10 名以上の団体の場合は要予約。
- 入館無料：無料
- 海洋教育の 12 分野：A 生活・健康・安全、E 地球、F 物質、G 生命、H 環境・循環、I 資源・エネルギー、J 経済・産業、K 管理（海を知る）

●施設概要

熊本県水産研究センターは、水産業に関する試験・研究を行っている熊本県の研究機関です。明治 33 年に設立され、平成 2 年に現在の場所に移転しました。20 名以上の研究員が、熊本県の魚介類や海藻などの水産資源に関わる研究を行っています。水産研究センターでは調査船を 2 隻保有し、定期的に天然の魚の資源量を調査したり、海の環境を調査したり



熊本県水産研究センターの外観。建物は船をイメージしたユニークな造り

りしています。水産研究センター内にある研修センターには常設の展示があり、現在水産研究センターで行われている研究や熊本県の水産業全般について学ぶことができます。展示は、誰でも無料で見学することができます。

●学びのポイント

- ・天草の主な産業である水産業について知る。
- ・天草の水産業とそれを支える海の環境に興味をもち、持続的な水産資源の管理の重要性に気づく。

●施設見学の流れ

1. 受付

研修センターの前で受付名簿に記帳します。常駐職員の方が、展示を案内してくださることもあります。

2. 研修センターの展示を見学

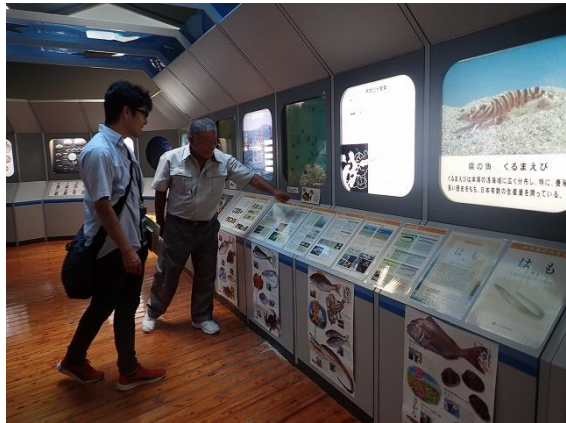
展示では熊本県の水産業について学ぶことができます。熊本県では天然の水産資源を増やすためにマダイの稚魚やアワビの稚貝などの放流が行われています。水産研究センターでは、放流の効果を調べています。また魚介類だけでなく、ノリなどの海藻の研究と養殖指導が行われています。さらに、クマモト・オイスター（戦後、熊本県から米国に輸出された種ガキをもとに養殖されブランド化された）の研究も行われています。クマモト・オイスターは、マガキよりも成長速度が遅く、飼育がなかなか難しいそうです。

3. センター紹介ビデオの視聴

ビデオ「おしえて博士?! くまもとの海の宝物」(20分)は、小学生が水産研究センターを訪れ、クイズに答えながら海の宝物を探すストーリーです。水産研究センターの取り組みを子どもでもわかりやすく学ぶことができ、親しみやすい内容になっています。

4. 魚のエサやり体験

本館の中庭では、マダイなどの養殖魚にエサをあげる体験ができます。天草で水揚げされる魚介類のうち、およそ7割は養殖です。なかでも、ブリとマダイがそのほとんどを占めます。ブリは短期間で大きくなる一方で、赤潮に弱いという特徴があります。水産研究センターでは魚介類の養殖の研究、病気の診断や投薬の指導、さらに赤潮などの環境調査も実施しています。



常駐職員の方に展示室を案内いただきました



幻のカキ クマモト・オイスター



中庭では魚のエサやり体験ができます

●海藻と地球温暖化

ノリやアオサ、アオノリなどの海藻は、地球温暖化の影響を受けやすいと言われています。熊本県では主に有明海でノリの養殖が大規模に行われています。ノリの種付けは通常秋から冬の海水温が下がる時期に行われ、収穫は春の水温が上がる前に行われます。しかし、地球温暖化の影響で、冬の水温が下がる時期が遅くなり、さらに春の水温上昇も早くなり、養殖に適した水温の時期が短くなってきています。例年、9月に種付けをして年内に出荷していましたが、今では10月に種付けをして、出荷の時期もずれこんでいるそうです。天草ではアオサの養殖も行われていますが、アオサもノリと同様に地球温暖化の影響を受けやすく、昨年から不漁が続いています。八代で行われているスジアオノリの養殖も、昨年の2018年から深刻な不漁に見舞われているそうです。現在、水産研究センターでは、高水温で育つノリの種を採り経過を見ているところで、地球温暖化の影響に強い品種を育てる品種改良が行われています。



天草で行われるアオサの養殖

●赤潮のモニタリング

2019年夏、八代海で赤潮警報が発令され、天草や長島などの養殖ブリに甚大な被害が出ました。水産研究センターの浅海干潟研究部では、定期的な調査や漁業者の情報などから赤潮を発見した場合、赤潮の分布範囲・原因となるプランクトンの種類・細胞数などを調査して、メーリングリストやホームページなどで漁業者に情報発信しています。2019年は約1か月もの間、八代海



赤潮を衛星画像から解析する研究も（水産研究センターの展示より引用）

のシャットネラ属のプランクトンが一定量の細胞数を超え、水産研究センターは赤潮警報を発令していました。国や県は赤潮などの異変を早期に感知するため、自動観測ブイを八代海と有明海に何か所か設置して観測をしています。また、赤潮発生時は、養殖いかだに船をつけると魚がエサをもらえると近寄り、魚の運動量が上がって死を誘発するので、船はいかだに近寄らないようにするそうです。ドローンなどの先端技術をこうした場面で活用するのも、有効かもしれません。

●施設 Data

熊本県水産研究センター

住所：〒869-3603 熊本県上天草市大矢野町中 2450 番地 2

TEL：0964-56-5111（代表）

FAX：0964-56-4533

E-mail：suisankense@pref.kumamoto.lg.jp

URL：http://www.suiken.pref.kumamoto.jp

地図：



天草・海の冒険サポーターズテキスト

天草・海施設探訪②「熊本県水産研究センター」

■発行：天草海部 ■企画・制作：浪崎直子・正角雅代・野間英樹 ■執筆：浪崎直子

■取材協力：熊本県水産研究センター企画情報室 長山公紀

※本テキストは、2019年度地球環境基金の助成を受けて作成しました。

※本テキストでは、オリジナルを改変しての利用、有償配布、素材の流用を禁止します。